

自動車の点検整備制度



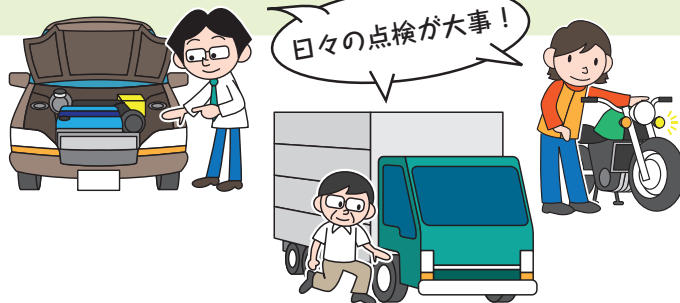
自動車の点検整備の実施は
法律により義務付けられています！

自動車の使用者は、自動車の点検と必要に応じて整備を行い、当該自動車を保安基準に適合（不具合または不具合に至る可能性が高い箇所が無い状態）するように維持しなければなりません。

自動車使用者の点検及び整備の義務

○日常点検整備

自動車の使用者は、適切な時期に日常的に点検すべき事項について、目視等により自動車を点検しなければなりません。なお、自家用及び事業用貨物自動車等（3か月または6か月定期点検義務付け車両）の使用者または運行者は、一日一回、その運行の開始前に点検をしなければなりません。また、点検の結果、不具合に至る可能性が高いまたは不具合がある場合は、必要な整備をしなければなりません。



○定期点検整備

自動車の使用者は、国が定める期間ごとに自動車点検基準に則り自動車を点検しなければなりません。（詳細は「主な車検の有効期間及び定期点検間隔一覧表」を参照）

【3か月ごとに点検の実施が必要な車両】

- ・事業用自動車
- ・車両総重量8トン以上の自家用自動車
- ・その他の国土交通省令で定める自家用自動車

【6か月ごとに点検の実施が必要な車両】

- ・車両総重量8トン未満の自家用貨物自動車
- ・その他の国土交通省令で定める自家用自動車

【1年ごとに点検の実施が必要な車両】

- ・上記以外の自動車

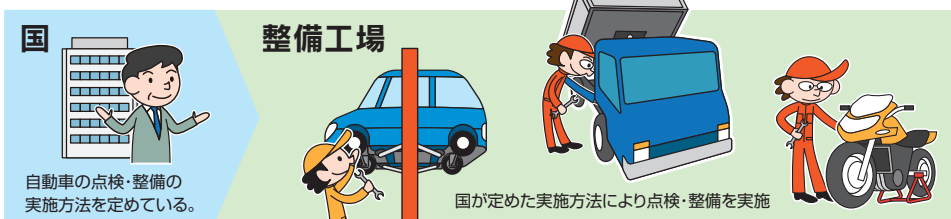
なお、点検の結果、不具合に至る可能性が高いまたは不具合がある状態の場合は、必要な整備をしなければなりません。



○自動車の点検及び整備に関する基準

自動車の下記の点検・整備の実施方法は国により定められています。

- ・日常点検及び定期点検の実施方法
- ・点検の結果必要となる整備の実施方法
- ・点検及び整備に関し必要な事項



※上記内容については、道路運送車両法 第四章 道路運送車両の点検及び整備及び第四十七条の二、第四十八条、第五十七条に定められています。

法定1年定期点検

(自家用乗用車等)

定期点検でクルマの故障原因になる不具合を早期発見！

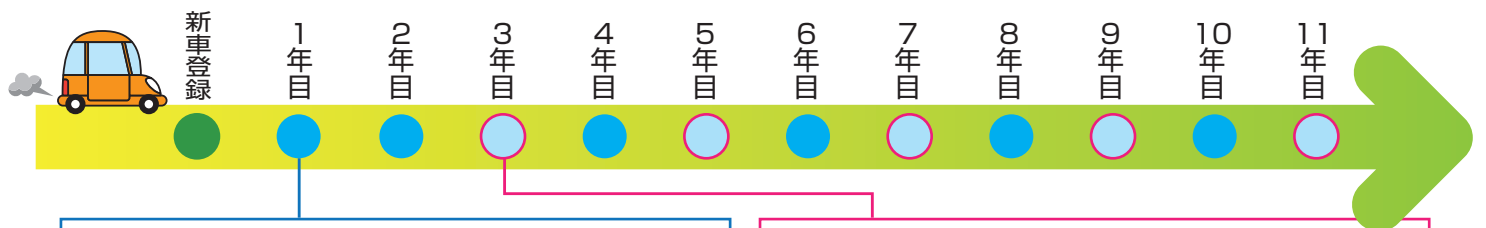
定期点検は、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う点検です。自家用乗用車の定期点検は最低でも1年ごとに行う必要があります。



定期点検実施スケジュール



人は年に一回の定期健診で体の異常を早期発見し、重度の病気になる前に治療が可能！
車も年に一回の定期点検で不具合を早期発見し、重度の故障になる前に対策が可能！



…1年定期点検

安全確保、公害防止及び故障予防の観点から、車検と車検の間に年にクルマの構造、装置が正常に機能しているかを国が定める基準に沿って点検し、必要に応じて部品交換・修理・調整等を行います。

…車検(継続検査)+2年定期点検

車検とは、一般的に自動車検査証の有効期限が満了した後も引き続きその自動車を使用するときに受ける検査(継続検査)を指します。また、車検時に行う2年定期点検では、1年定期点検項目に加え、国が定める基準に沿ってさらに多くの点検項目を実施します。

定期点検の実施の有無や次回の定期点検の実施時期は、車両前面ガラスのステッカーで確認できます。

点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例

搭乗者の命に係わるリスク 燃料漏れによる車両火災

燃料ホース等に亀裂が生じることで燃料漏れを引き起こすことがあります。漏れた燃料がエンジンなどの熱源により着火し車両火災に至ってしまった場合運転者だけでなく同乗者等も危険にさらすことになります。



亀裂から燃料漏れをおこした燃料ホース

他人の命に係わるリスク 装置破損による車輪脱落

車輪と車体をつなぐ装置が破損することで、ハンドル操作および自走ができなくなるケースがあります。その場合、歩行者や他の交通なども危険にさらすことになります。



破損した前輪と車体をつなぐ装置

多大な出費のリスク オーバーヒートによる路上故障

冷却不良を起こしエンジンがオーバーヒートしてしまった場合、多大な出費を要する可能性はもちろん、大事な予定に支障を及ぼすだけでなく、交通渋滞の原因になり、他人にも迷惑をかけることになります。



冷却不良によるオーバーヒート

他の車を巻き込むリスク 整備不良が原因となる交通事故

ブレーキランプ切れが原因で後続車と追突事故をおこしてしまうなど、適切な点検整備を怠ると単独事故だけではなく、他の車を巻き込んだ事故を発生させてしまう可能性があります。



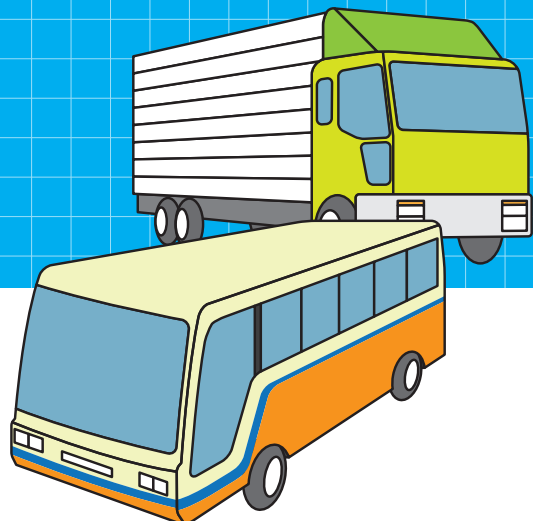
電球が切れたため点灯しないブレーキランプ

法定3か月定期点検

(貨物自動車・バス等)

定期点検で車両の故障原因になる不具合を早期発見！

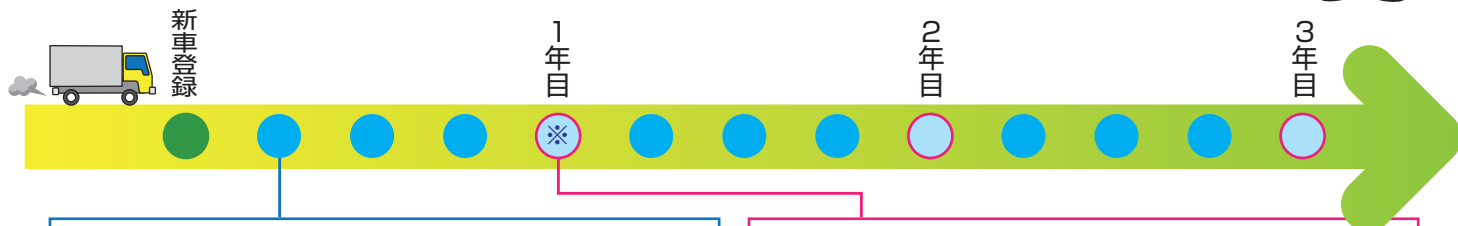
定期点検は、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う点検です。事業用自動車等の定期点検は、自家用乗用車などとは異なる使用状況や走行距離などを考慮し、3か月ごとに行うことが義務付けられています。



定期点検実施スケジュール

※車両総重量8トン未満の事業用貨物自動車等は新車登録からの初回車検は2年目となります。(その他車種により異なる)なお、上記の場合においても、新車登録から1年目は12か月定期点検の実施が必要です。

走行中の故障は重大な事故を引き起こす可能性があるばかりではなく、輸送スケジュールの遅延や積荷の損傷など、お客様へも損害を与えてしまう可能性があります。



…3か月定期点検

安全確保、公害防止及び故障予防の観点から、車検と車検の間の3か月ごとに車両の構造、装置が正常に機能しているかを国が定める基準に沿って点検し、必要に応じて部品交換・修理・調整等を行います。

…車検(継続検査)+12か月定期点検

車検とは、一般的に自動車検査証の有効期限が満了した後も引き続きその自動車を使用するときに受ける検査(継続検査)を指します。また、車検時に行う12か月定期点検では、3か月定期点検項目に加え、国が定める基準に沿ってさらに多くの点検項目を実施します。

定期点検の実施の有無や次回の定期点検の実施時期は、車両前面ガラスのステッカーで確認できます。

点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例

搭乗者の命に係わるリスク

燃料漏れによる車両火災

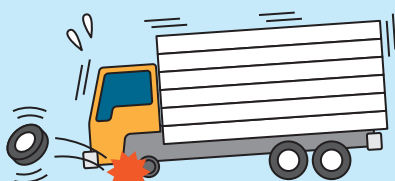
燃料ホース等に亀裂が生じることで燃料漏れを引き起こすことがあります。漏れた燃料がエンジンなどの熱源により着火し車両火災に至ってしまった場合運転者だけでなく同乗者等も危険にさらすことになります。



他人の命に係わるリスク

装置破損による車輪脱落

車軸を支えるベアリングの不具合などにより走行装置が破損することで、走行ができなくなるケースがあります。また、それにより車輪が脱落してしまった場合、歩行者や他の交通なども危険にさらすことになります。



多大な出費のリスク

オーバーヒートによる路上故障

冷却不良を起こしエンジンがオーバーヒートしてしまった場合、多大な出費を要する可能性はもちろん、大事な予定に支障を及ぼすだけでなく、交通渋滞の原因になり、他人にも迷惑をかけることになります。



法定6か月定期点検

(貨物自動車・バス等)

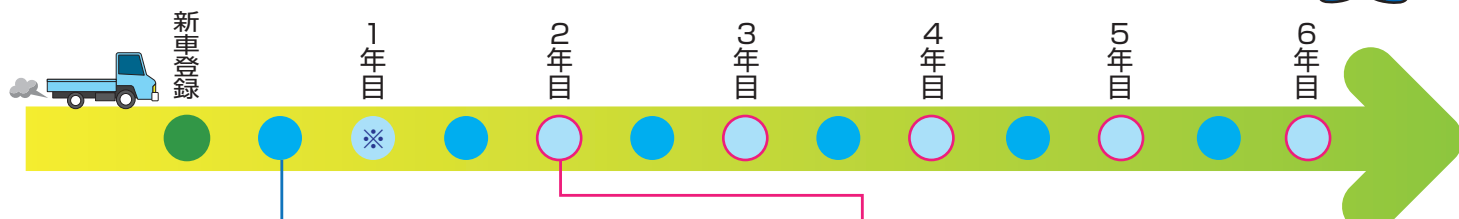
定期点検で車両の故障原因になる不具合を早期発見!

定期点検は、自動車の故障を未然に防ぎ、その性能維持を図るために行う点検です。自家用貨物自動車等の定期点検は、自家用乗用車などとは異なる使用状況や走行距離などを考慮し、6か月ごとに行うことが義務付けられています。

定期点検実施スケジュール

※車両総重量8トン未満の自家用貨物自動車等は新車登録からの初回車検は2年目となります。(その他車種により異なる)なお、上記の場合においても、新車登録から1年目は12か月定期点検の実施が必要です。

走行中の故障は重大な事故を引き起こす可能性があるばかりではなく、輸送スケジュールの遅延や積荷の損傷など、お客様へも損害を与えてしまう可能性があります。



…6か月定期点検

安全確保、公害防止及び故障予防の観点から、車検と車検の間の6か月ごとに車両の構造、装置が正常に機能しているかを国が定める基準に沿って点検し、必要に応じて部品交換・修理・調整等を行います。

…車検(継続検査)+12か月定期点検

車検とは、一般的に自動車検査証の有効期限が満了した後も引き続きその自動車を使用するときに受ける検査(継続検査)を指します。また、車検時に行う12か月定期点検では、6か月定期点検項目に加え、国が定める基準に沿ってさらに多くの点検項目を実施します。

定期点検の実施の有無や次回の定期点検の実施時期は、車両前面ガラスのステッカーで確認できます。

点検・整備を怠ることによる故障・不具合事例

搭乗者の命に係わるリスク

燃料漏れによる車両火災

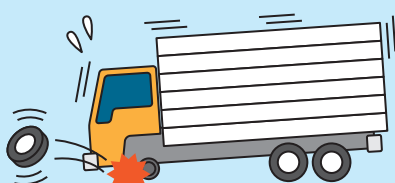
燃料ホース等に亀裂が生じることで燃料漏れを引き起こすことがあります。漏れた燃料がエンジンなどの熱源により着火し車両火災に至ってしまった場合運転者だけでなく同乗者等も危険にさらすことになります。



他人の命に係わるリスク

装置破損による車輪脱落

車軸を支えるベアリングの不具合などにより走行装置が破損することで、走行ができなくなるケースがあります。また、それにより車輪が脱落してしまった場合、歩行者や他の交通なども危険にさらすことになります。



多大な出費のリスク

オーバーヒートによる路上故障

冷却不良を起こしエンジンがオーバーヒートしてしまった場合、多大な出費を要する可能性はもちろん、大事な予定に支障を及ぼすだけでなく、交通渋滞の原因になり、他人にも迷惑をかけることになります。

